

Ⅱ 英語科の問題と 結果・分析

分析ページの構成と見方について

(1) 「出題のねらいと評価」について

「大問・領域」には1 ~ 10 までの大問ごとに、その「言語活動の内容」と「能力」を示した。「設問のねらい」には、小問ごとの設問のねらいを、「評価」の項目には、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「表現の能力」「理解の能力」「言語や文化についての知識・理解」の4観点に該当するものを○印で示した。

(2) 「正答と主な誤答例」について

主な誤答例については、抽出生徒の誤答について頻度の高いものを示した。また参考に無答率を付記した。

(3) 「結果の考察と分析」について

- ・ 大問ごとに設問・正答・結果等について左ページに、その考察（概要・指導のポイント）について右ページに記した。
- ・ 平成15年度に実施された国立教育政策研究所の調査問題に類似したものについては、参考数値として数値に「*」をつけて示した。
- ・ 昨年度との経年比較が可能な問題については、「市の正答率」の欄に（ ）で昨年度の正答率を掲載した。

Ⅱ 問題と結果・分析

1 出題のねらいと評価

大問・領域	小問	設問のねらい	評価			
			関 意 態	表 現	理 解	言 ・ 文
1リスニング (聞き取りの能力)	(1)	英語での問いかけに応答する			○	
	(2)	英語での問いかけに応答する			○	
	(3)	英語での問いかけに応答する			○	
2リスニング (聞き取りの能力)	(1)	英語を聞いて詳細を理解する			○	
	(2)	英語を聞いて詳細を理解する			○	
	(3)	英語を聞いて詳細を理解する			○	
	(4)	英語を聞いて詳細を理解する			○	
3リスニング (聞き取りの能力)	(1)	英語を聞いて概要・要点を理解する			○	
	(2)	英語を聞いて概要・要点を理解する			○	
	(3)	英語を聞いて概要・要点を理解する			○	
4対話文の読解 (読解の能力)	(1)	英語を読んで詳細を理解する			○	
	(2)	英語を読んで詳細を理解する			○	
	(3)	英語を読んで詳細を理解する			○	
	(4)	英語を読んで詳細を理解する			○	
5手紙文の読解 (読解の能力)	(1)	英語を読んで概要・要点を理解する			○	
	(2)	英語を読んで概要・要点を理解する			○	
6対話に合う文の選択 (対話の流れや場面の理解)	(1)	英語を読んで対話の流れを理解する			○	○
	(2)	英語を読んで対話の流れを理解する			○	○
7対話に合う慣用表現の選択 (慣用表現等の知識)	(1)	場面に応じた英語の使用法を理解している			○	○
	(2)	場面に応じた英語の使用法を理解している			○	○
8自分を紹介する文章の作文 (表現の能力)	(1)	書く内容を考えて英語で書く	○	○		
9絵の内容に合う文の作文 (表現の能力)	(1)	指定された内容を英語で書く		○		
10語句の整序問題 (文法・語順についての理解)	(1)	与えられた英語で語順正しく書く		○		○
	(2)	与えられた英語で語順正しく書く		○		○
	(3)	与えられた英語で語順正しく書く		○		○

正答と主な誤答例

大問・領域	小問	正 答	主な誤答例
①リスニング (聞き取りの能力)	(1)	エ	ウ ア
	(2)	ア	ウ エ
	(3)	ウ	イ エ
②リスニング (聞き取りの能力)	(1)	ウ	ア イ
	(2)	エ	ウ
	(3)	ウ	イ
	(4)	イ	ア
③リスニング (聞き取りの能力)	(1)	イ	
	(2)	エ	無答率 0%
	(3)	ア	
④対話文の読解 (読解の能力)	(1)	ア	
	(2)	エ	イ ウ
	(3)	ウ	エ
	(4)	イ	ア
⑤手紙文の読解 (読解の能力)	(1)	エ	ア イ
	(2)	ウ	ア
⑥対話に合う文の選択(対話の流れや場面の理解)	(1)	ウ	ア イ
	(2)	イ	ウ 無答率 2%
⑦対話に合う慣用表現の選択(慣用表現等の知識)	(1)	エ	イ
	(2)	ア	イ
⑧自分を紹介する文章の作文 (表現の能力)		正答例 My name is _____. I like basketball. I can play basketball well. I am in the basketball club. 等	冠詞の欠落 単数複数のミス I like swim. I can cooking. I'm play baseball. I live Saitama. I like subject is math. スペリングミス 無答率 7%
⑨絵の内容に合う文の作文(表現の能力)		正答例 Satoshi (He) is playing (enjoying, practicing) tennis. 等	be 動詞の欠落 ing の欠落 スペルミス 進行形でなく一般動詞の文になっている This is Satoshi play tennis. 無答率 8%
⑩語句の整序問題(文法・語順についての理解)	(1)	I (went to bed at) eleven.	at, to の位置 無答率 4%
	(2)	(Do you know him) ?	Do you him know? 無答率 4%
	(3)	(She is a member of my family).	She is my family of a member. She is of my family a member. a member of の語順ができない 無答率 5%

※ 無答率については、記述したもの以外はすべて1%

3 問題と結果の考察

(単位：%)

大問・ 領域	小 問	問 題	正 答	国 の正 答率	市 の正 答率	自 校の 正答率
[1] リスニン グ (聞き取 りの能力)	(1)	英語の話しかけに対する応答を選ぶ Oh, you have nice cards. How many cards do you have? ア This is my card. イ It's nice. ウ Yes, I have cards. エ I have about fifty.	エ	52 *	65 (72)	
	(2)	Do you usually have breakfast? ア Yes, I have rice every day. イ No, I like rice. ウ Yes, you have breakfast. エ No, you don't have breakfast.	ア	38 *	58 (80)	
	(3)	Oh, is this a present for me? Thank you. ア Nice to meet you. イ I'm fine. ウ You're welcome. エ Sure.	ウ	63 *	74 (72)	
[2] リスニン グ (聞き取 りの能力)	(1)	絵の内容に合う文を選ぶ ア Look. The bird is in the car. イ Look. The bird is under the car. ウ Look. The bird is on the car. エ Look. The bird is by the car.	ウ	65 *	57 (44)	
	(2)	ア Mom, what time is it now? It's five two. イ " It's twelve five. ウ " It's five twelve. エ " It's five twenty.	エ	71 *	86 (70)	
	(3)	ア This is my sister. She can run fast. イ " She can speak English well. ウ " She can cook well. エ " She can play the piano well.	ウ	95 *	94 (96)	
	(4)	ア Ken is in the park. He is walking with a dog. イ " He is sitting with a dog. ウ " He is playing soccer with a dog. エ " He is swimming with a dog.	イ	76 *	81 (74)	
[3] リスニン グ (聞き取 りの能力)	(1)	何についての会話ですか。 A: Wow! Is this your dog? B: Yes. Her name is Momo. ア 食べ物についての会話 イ ペットについての会話 ウ 旅行についての会話 エ スポーツについての会話	イ	99 *	98 (90)	
	(2)	何をしているときの会話ですか。 A: Excuse me, two hamburgers and one cola, please. B: For here or to go? B: For here. ア 教室での自己紹介 イ 電話でのパーティーへの招待 ウ チケット売り場での予約 エ 店での注文	エ	83 *	98 (98)	

(1) 結果の概要

リスニング問題①、②、③全体の正答率は81%であり、内容の大意を聞き取る力は概ね付いていると思われる。

①の正答率は65.7%と、他の問題に比べて低い結果となった。これは、相手の問いかけを聞き取り、さらには限られた時間内にその答えの英文を読み取って適切な答えを選択するものであり、聞く力と読み取る力の両方が同時に要求され、また適切な応答の仕方の判断が必要となるため、生徒にとって難易度が高くなったと思われる。

②の絵の内容に合う英文を聞き取る問題では、(1)の57%を除くと概ね80~90%の高い正答率である。これは、聞いた英文の大意を理解し、その内容に合った絵を選択するもので、英文を読んで答える必要がないことが要因として考えられる。従って、文字を介することなく音声だけを聞いて英文の内容を理解する力は、大部分の生徒が付いていると思われる。

③は、正答率が97.7%と高い結果となった。会話を聞いて、その場面や話題の中心が何かをつかむ力は、ほとんどの生徒が身に付けているものと思われる。

比較的正答率が低かった問題については、次のような分析が考えられる。

① (2) 正答率58%

放送文 Do you usually have breakfast?	正答選択肢の文	○ ア Yes, I have rice every day.
	多かった誤答	× ウ Yes, you have breakfast.
		× エ No, you don't have breakfast.

Do you ~? という疑問文に対して、Yes, I do./No, I don't. で反応することを予想していたのに、その選択肢がなかったため、とまどいが生じたことが十分考えられる。尋ねられている英文の内容にまで考えが至らなかったため、後から出てくる breakfast に引きずられる形で誤答につながったことが考えられる。

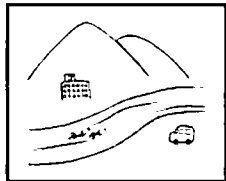
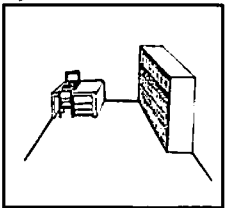
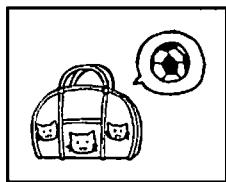
② (1) 正答率57%

示された絵	正答選択肢の文	○ ウ Look. The bird is on the car.
	多かった誤答	× ア Look. The bird is in the car.
		× イ Look. The bird is under the car.

アを選択した場合は、in と on の微妙な発音の聞き取り間違い、イを選択した場合は、前置詞の使い方そのものを間違えており、「鳥の下に車」という意味合いでとらえたことが考えられる。

(2) 指導のポイント

- ① 具体的な場面設定の中で、Do you usually have breakfast? などの質問に対して、Yes, No だけの応答で会話を完結せずに、相手が求めている新しい情報をできるだけ加えて応答できる力を付けさせる指導が必要である。例えば、決められた場面設定の対話だけでなく、それにプラス1文加えて行う活動や、自分たちの言いたい表現を使い対話を発展させるスキット活動などが考えられる。
- ② 質問に対する応答の選択肢が英文で書かれている場合は、聞き取るだけでなく、短時間で読み取る力も必要であり、日頃の授業の中でも「聞くこと」と「読むこと」をリンクさせた言語活動を工夫していく必要がある。
- ③ 授業では、コミュニケーション型な言語活動の中で、自然なスピードやリズムに慣れさせるとともに、基本的な会話表現や慣用表現を使える場面を多く設定し、繰り返し使う体験をさせることで、確実な定着を図る必要がある。

	(3)	どのような場面での会話ですか。 A: Excuse me, which train goes to Iwatsuki? B: Take the Tobu Noda Line. It's over there. A: How long does it take? B: About 15 minutes. A: Thank you. ア 道案内での会話 イ 買い物での会話 ウ 授業での会話 エ 食事での会話	ア	91 *	97 (97)	
4 対話文の 読解 (読解の 能力)	(1)	会話の内容から健が作った計画表を選ぶ Ken: You like soccer, so let's go and watch a soccer game. Ted: Good idea! And then? Ken: Let's go to the park. We can see many flowers there. Ted: OK. Ken: After lunch, you can come to my house. Ted: Great!	ア サッカー観戦 公園へ行く 昼食 健の家へ行く	46 *	92 (83)	
	(2)	会話の内容から写真を選ぶ Hiroshi: This is a picture of my summer vacation. Judy: You are swimming in the river! Do you like swimming? Hiroshi: Yes, I do. I'm swimming with my father. Judy: Did you go there by car? Hiroshi: Yes. Judy: Is this a school? Hiroshi: No, it's not. It's a hospital.	エ 	86 *	89 (58)	
	(3)	会話の内容から真紀の部屋を選ぶ Nancy: Oh, you have a computer. Do you often use it? Maki: Yes. I use it everyday. Nancy: And you have many books. Do you read books everyday? Maki: No, not everyday. But I like reading. Nancy: Where is your bed? Maki: I don't use a bed. I use <i>futon</i> . Nancy: Oh, I see.	ウ 	61 *	80 (92)	
	(4)	会話の内容からメアリーが買ったものを選ぶ Mary: Look at this. This is my new bag. Kumi: Wow it's nice. Mary: I love cats. So I bought it. Kumi: I see. Three cats are on the bag. They are very nice. What do you have in your bag? Mary: My soccer ball. I bought it today, too.	イ 	75 *	88 (92)	

(1) 結果の概要

読解の能力を問う問題である[4]、[5]全体の正答率は81%であったが、[4]全体の正答率が87%である一方、[5]全体の正答率は67%と大きな開きが見られた。個々の問題の正答率を見ても、[4]の4題とも[5]の2題を上回っている。

読解問題[4]は表や絵を見ながら対話を読み、対話の内容に合う絵を選ぶ問題である。どの問題も正答率が比較的に高いことから、対話文の中のキーワードとなる部分と絵や表を照らし合わせ、正しいものを絞り込んでいく力は身に付けている生徒が多いと言える。

読解問題[5]は文字のみから内容を読み取る問題である。[4]に比べ絵や図表に頼ることができず、英文全体を正確に読み取り、内容を把握する必要があるため、正答率は[4]よりも低くなっている。

[5]の正答と多かった誤答

(1) 英文が書かれた目的は何かを選択肢より選ぶ(書き手の意図を読み取り理解する問題)

正答 エ お誘いに対する断り

多かった誤答 ア パーティーへのお誘い イ 自分の家族の紹介

(2) 本文の内容と合うものを選択肢より選ぶ(英文の内容を正しく読み取る問題)

正答 ウ 綾香の姉は京都に住んでいる。

多かった誤答 ア 綾香は京都に住む両親に会いに行く。

誤答の様子を見ると、(1)では party という単語を見つけ、それに関連したアの選択肢を選んだ間違い、my father, my sister という語句を見つけ、それに関連したイの選択肢を選んだ間違いが考えられる。(2)では I'll go to Kyoto with my father and mother that day.の意味がとれていない可能性が高い。この原因としては、英文をじっくりと読んで内容全体を正確に把握することができずに、個々の語句や文などの断片的な情報から解答を選んでいる状況が考えられる。

以上のように問題[4]と問題[5]の正答率に20ポイントもの差があることから、ある程度の長さのまとまった文章をじっくりと読み、内容全体を把握する力を身に付けていくことが今後の課題であると思われる。

(2) 指導のポイント

- ① 英文をより正確に読み取る力を付けるために、語彙や文の構造などの言語に関する知識を着実に積み重ねていくことが必要である。そのためには授業時間内の学習だけではなく、生徒が自主的に取り組める家庭学習(予習・復習・自主学習)課題を与え、授業と家庭学習を連携させて効果的に反復練習を継続させる工夫が必要である。
- ② まとまった文章を読み、その概要を把握する学習が必要である。そのためには Unit の学習や Reading Plus の学習で、英文全体を正確に読み取る学習を取り入れるとよいであろう。具体的には、内容を把握しないと解けないような課題を与える、場面の状況や登場人物の心情を考えさせるなどの課題が考えられる。
- ③ 英文が長ければ長いほど、英語に苦手意識のある生徒は、問題文を読む前にあきらめてしまい、じっくりと問題に取り組まずに答えを選んでしまう傾向があると思われる。英語の学習だけではなく、日常の学校生活の中で「あきらめずに課題にじっくり取り組む」態度の養成を意識することも大切である。

5 手紙文の読解(読解の能力)	Hi, James. How are you doing? Thank you for your card. I'm sorry, but I cannot go to your party. I'll go to Kyoto with my father and mother that day. My sister lives there. She is a junior high school teacher. We go to the <i>Gion</i> festival with her every year. Enjoy your party. And please look at my pictures of Kyoto later! See you. Ayaka				
	(1) 英文が書かれた目的は何か ア パーティーへのお誘い イ 自分の家族の紹介 ウ 祇園祭の説明 エ お誘いに対する断り	エ	76 *	75 (66)	

(1) 結果の概要

[6]は対話文を読んで、その流れや場面を把握し、対話が自然な流れになるように、適切な文を選ぶ問題である。[7]も同じく対話文を読んで場面を把握し、それに応じた慣用表現を選ぶ問題である。

[7]の正答率は82%で理解度は高かった。個々に見ても飼犬が話題になっている(1)は85%、母と息子の日常会話である(2)が79%と、場面理解の容易な内容であったようである。

それに対して[6]は全体の正答率は60%で、(1)が67%(2)は53%と低い数値となった。最も低い(2)は、無答率も2%と高く、対話の流れが把握しづらかったと思われる。ウの Do you like your sister?を選んだ誤答が多く、内容を把握しないまま、次の優子のせりふの “I like it.” に反応して解答を選んでしまった様子がうかがえる。また、文脈全体から “How about this?” という提案の文につながるという場面まで理解していなかったとも考えられる。

(2) 指導のポイント

- ① 教科書の基本的な対話の定着だけでなく、即興的な場面にも対応できる応答力も身に付ける必要がある。そのためには、決められた場面設定の対話だけでなく、それに1文加えて行う活動や、自分たちの言いたい表現を使い対話を発展させるスキット活動などで、応答力を鍛えることが必要であると考えられる。その際に、言いたくて言えなかった語句や表現をリストにまとめて、表現活動のヒント集として蓄積するなど、継続的に語彙を増やしていくとよい。
- ② ALTや教師によるインタビューや問い掛けを授業において継続的に行い、実際の場面で慣用表現や会話表現が使えるような状況を設定する。

(1) 結果の概要

[8]については昨年度より無答率が7%下がり、正答率が20%上がっている。これは、自己紹介という条件設定が生徒にとって書きやすいものであったことに加えて、英語学習において初期の段階から何度も経験があるということが、書く意欲を失わずに問題に取り組ませ、無答率を減らす原因になったのではないと思われる。しかしまだ正答率は70%であり、以下のようなさまざまな誤答が見られ、英文の基本的なルール等が十分には理解できていないことがうかがえる。

多く見られた誤答

冠詞の欠落、単数・複数のミス、スペリングミス

上記以外に見られた誤答例

I like swim. I can cooking. I'm play baseball. I live Saitama. I like subject is math.

[9]については、昨年度より正答率が9%下がり、43%だった。現在進行形は1年生で学び、「～ing」が進行形において使われるということについての理解はかなりできていると思われるが、2年生のこの時期には、「be 動詞＋～ing」がまだ定着していない状況がうかがえ、特に be 動詞の欠落での誤答が目立った。

(2) 指導のポイント

書くことに対する意欲が昨年度より高まってきたことから書く活動を多く取り入れるとともに、正確性を追求していくことも必要だと思われる。

- ① 「もっと書きたい。正確に書きたい」という意欲を引き出したい。例えば、1年生では30語以上で自己紹介、2年生では50語以上でアンケートを基にしたクラスのベスト3など、生徒が書く意欲を失わないような題材設定と目標が必要であると考え。書いた作品についても、掲示したり、英語科通信に載せて紹介することによって、さらに書くことへの動機付けとなると考える。
- ② 家庭学習などで基本文を中心とした課題作文に取り組み、ALTによる添削を活用することなどにより、正確性を身に付けさせていきたい。

10 文法・語順についての理解

(1) 結果の概要

10の正答率は60%となった。並べかえる語が提示されていることもあり、無答率は8 9より低くなっている。それぞれの問題の正答率を見ると(1)は72%、(2)は71%、(3)は38%である。

(1)、(2)の誤答を見ると、(1)は前置詞の位置、(2)は目的語の位置(Do you him know?)に誤りが多く見られ、約3割の生徒が基本的な前置詞を用いた句や基本的な英語の語順が十分に習得できていないことが分かる。ただし、疑問文の理解という点では、昨年のWhat timeを用いた疑問文に比べ、一般疑問のDo you ~?の語順についての理解は高いと言える。

(3)についてはa member ofの語順が正しく並べられないというのが主な誤答であり、その結果から今回もofの習得の難しさが推測できる。その背景には、日本語の語順の強い影響が考えられる。英語の言語的特徴である後置修飾に対する理解の困難さがはっきりと現れた結果になっている。

(2) 指導のポイント

- ① 文法事項と聞くと、「難しい」と考えてしまう生徒が多い。例文をあげるなどしてできるだけわかりやすい導入を工夫する必要がある。普段の授業の中でまず、基本文として学習する文法事項を定着させることが第一である。そして何度も学習した表現を使う場を与えることが大切である。一度で理解できなかったとしても、何度も繰り返し使うことで徐々に理解が深まっていくと考えられる。
- ② 文法事項や文の構造などを教えるだけに留めず、能動的に英文を書く多様な活動を積極的に取り入れ、習得へつながるように工夫したい。また語句リストなどを作成して、自己表現の一助とさせたい。

4 まとめ

【調査結果の概要】

<全 体>

- 全体的な正答率は75%と概ね満足できる状況である。絵や図を使った聞き取り・読み取りの問題及び、身近な状況に用いられる慣用表現については、よくできている。
しかし、絵や図を用いずに選択肢の英文を読み取って答える聞き取りの問題、文字だけで示された読み取りの問題については、正答率が低い。
- 書くことの問題については、無答率がそれぞれ7%、8%と改善し、多くの生徒に書こうとする意欲が見られた。

<聞くこと>

- 聞き取りの能力そのものは概ね満足できる状況である。特に、状況が瞬時に判断できるような絵や図があるものについてはよくできている。また、キーワードさえ聞き取れば答えの推測ができるような、概要を聞き取る問題も同様に正答率が高い。
- 英語の自然なスピードやリズムの中で似た音を聞き取る力や、聞き取った内容に対しての応答を瞬時に判断する力は十分とは言えない。

<読むこと>

- 表や絵を見ながら英文を読み、読み取った条件や内容と表や絵を照らし合わせ、正しいものを絞り込んでいく力は身に付けている生徒が多い。
- 文字のみの英文から書き手の意図や内容を正確に読み取る問題や、対話の流れから場面を把握する問題になると、弱い面が出た。

<書くこと>

- 自己紹介を書く問題では、昨年の友人紹介という問題に比べ、無答率が下がり正答率が上がった。しかし、スペリング、単数・複数や動詞の使い方等の基本的な事項において、理解が十分でない面が見られる。

【今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点】

- 授業では、コミュニケーション型な言語活動の中で、基本的な会話表現や慣用表現を使える場面を多く設定し、繰り返し使う体験をさせることで、確実な定着が図れるようにする必要がある。
また、教科書の基本的な対話の定着だけでなく、即興的な場面にも対応できる応答力も身に付ける必要がある。そのためには、決められた場面設定の対話だけでなく、それに1文加えて行う活動や、自分たちの言いたい表現を使い対話を発展させるスキット活動などで、応答力を鍛えることが必要であると考えられる。
- まとまった文章を読み、その概要を把握する学習が必要である。そのためにはUnitの学習やReading Plusの学習で、英文全体を正確に読み取る学習を取り入れるとよいであろう。具体的には、内容を把握しないと解けないような課題を与える、場面の状況や登場人物の心情を考えさせるなどの課題が考えられる。
- 語彙や文の構造などの言語に関する知識を着実に積み重ねていくことが必要である。そのためには授業時間内の学習だけでなく、生徒が自主的に取り組める家庭学習（予習・復習・自主学習）課題を与え、授業と家庭学習を連携させて効果的に反復練習を継続させる工夫が必要である。